

対 象 学 年			
小学校			中学校
低学年	中学年	高学年	全学年

早朝野鳥観察



オオルリ（ヒタキ科）



キビタキ（ヒタキ科）

プログラムの概要

早朝に自然散策をするのは、とても気持ちが良いものです。自然の家の敷地内には、広葉樹のコナラ林、そして、スギやカラマツといった針葉樹林があります。また、イワナの住む清流の沢もあり、晴れた日には、妙高山をのぞむことができる野原も広がっています。

その自然の中を歩くだけでも、良いプログラムになりますが、双眼鏡やフィールドスコープ、ハンドブックを片手に森の中でさえずる鳥たちを観察することで、さらに自然を身近に感じることができます。

鳥の名前を知らなくても、鳥の姿を観察し、色や形からハンドブックを見て野鳥を識別してもいいでしょう。気軽な気持ちで早朝の野鳥観察に出かけてみましょう。

注意：野鳥の観察は年間をとおして可能です。しかし、暑くなる7月から8月にかけては、羽がはえ替わる時期（換羽）となり、あまり姿が見られなくなります。

所要時間：1時間～2時間

自然の家のまわりの野鳥観察

1 活動のねらい

- ・目と耳を使い、野鳥を見つけるための観察力を身につける。
- ・双眼鏡、フィールドスコープ等の観察用具の正しい取り扱い方を学ぶ。
- ・さまざまな色や形の鳥がいることに気づく。

2 活動のフィールド

- ・自然の家の敷地内
- ・20人位（1グループ 10名程度）

3 準備品

団体・個人で用意するもの：観察ノート、筆記用具（色鉛筆）

自然の家で用意するもの：双眼鏡、フィールドスコープ、妙高の野鳥観察ハンドブック
自然の家の地図

4 活動の手順

（1）事前学習（自然の家に来る前の学習）

- ・学校や家まわりで見られる鳥を調べておくと、環境の違いによって見られる鳥の種類が異なることに気づくことができます。

（2）少年自然の家での活動

① 双眼鏡、フィールドスコープやハンドブックを借ります。

- ・前日に必ず借りておきます。
- ・危険箇所などの情報を確認しておきましょう。
- ・用具の使い方を確認しておきましょう。

② ハンドブック、地図を見ながら、自然の家の周辺を歩きます。

- ・林の中に入るより、見通しの良い場所を選んで歩きましょう。



③ 春から夏にかけての観察ポイント

鳥たちにとって求愛、子育ての時期で、年間をととして一番観察しやすい時期です。この時期は、鳥たちは目立つために木のてっぺんにいることが多いです。



ホオジロ（ホオジロ科）

④ 秋の観察ポイント

大型のワシやタカの渡りの時期となります。秋晴れの日には、上昇気流にのって妙高山を越えるサシバ、オオタカ、ハチクマの鳥たちが、多いときで数百羽のタカ柱をつくって飛翔するダイナミックな姿を見ることができます。



サシバ（ワシタカ科）

⑤ 冬の観察ポイント

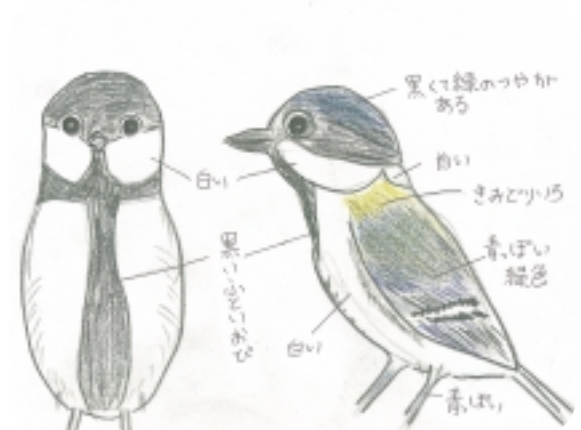
葉が落ち、見通しがよくなった林の中に入って一か所にじっとしていると、シジュウカラやエナガなどの小型の鳥たちが群れをつくって移動する姿を見ることができます。



ヤマガラ（シジュウカラ科）

⑥ 観察することができた鳥の特徴をメモしましょう。

- ・聞こえた鳥の声を言葉で表してみましょう。（ツツピー、ホーホケキョなど）
- ・鳥の姿、羽の色の特徴を書き込みましょう。色鉛筆などで色をつけておくとよいでしょう。



⑦ 観察ノートを用意して、何という鳥が何羽くらいで、どこで、何をしていたのか記録しましょう。

観察ノートの例

観察場所 自然の家

2006年 4月 17日

	時 間	鳥の名前	何羽	どこで	何を
1	6:12	ホオジロ	2	コナラの木の上で	さえずっていた

ふりかえりの活動（次のような言葉掛けをして活動をふりかえると良いでしょう）

- ・どんな鳥が見られたか、どんな鳥の声が聞こえたかみんなで確認しましょう。
- ・鳥を観察して、気づいたことわかったことを発表しましょう。

（3）事後学習（学校に帰ってからの学習する内容）

- ・家や学校のまわりで見られる鳥は、スズメやハトなど地味な色をした鳥が多いです。自然の家で見られた鳥たちの羽は、なぜきれいなのか、その理由を調べると学習が深まります。
- ・観察時のデータを持ち帰って、どんな鳥がどんな場所で、何をしていたのかをまとめることによって野鳥の生態を明らかにすることができます。

5 活動のまとめ

- ・事後学習で分かったことを発表します。
- ・野鳥の学習全体をとらえて感じたことを発表します。

6 活動上の留意点

- （1）双眼鏡、フィールドスコープで直接太陽を見ないようにしましょう。
- （2）鳥の視力は、人間より優れています。服装は、原色をさけるべく目立たない色のものを着ましょう。
- （3）鳥は、物音にも敏感です。観察するときは、足跡を立てない、しゃべらないという2つの約束を守りましょう。
- （4）事前に活動場所の情報を自然の家の職員から聞いてください。できたら下見をして、危険な地形や動植物がないか調べておきましょう。
- （5）年間をとらえて、自然の家の周辺の早朝の気温は低いので、夏期においても防寒着の用意をしておきましょう。
- （6）藪の中に入らなくても、長袖、長ズボンで観察に出かけましょう。靴は、前日のうちに自然の家から長靴を借用するとよいでしょう。
- （7）冬期の観察は、早朝でなくてもかまいません。スノシューをはいて森の中に出かけると小鳥の群れに出会うことができるでしょう。

7 参考文献

- ・国立妙高少年自然の家：妙高の野鳥観察ハンドブック

ねらい別活動プログラム集「早朝野鳥観察」

発行日：平成18年2月28日

発行：独立行政法人国立少年自然の家 国立妙高少年自然の家

所在地：〒949-2235 新潟県妙高市大字関山6323-2

編集：濁川明男（上越教育大学教授）

執筆：勝俣将明（上越市立直江津中学校教諭）